

# 名城大、愛知県 デルタ株検査

## 判別数時間に短縮

名城大(名古屋市天白区)の神野透人教授(衛生化学)らは、新型コロナウイルスに感染したかを調べるPCR検査装置を使い、感染力が強いデルタ株(インドで確認された変異株)を数時間で判別できる方法を開発した。愛知県と共同で三十日、デルタ株の広がりを確認する独自のスクリーニング検査を始めた。

これまでは、検体を国立感染症研究所(東京)に送るため、判別に少なくとも数日かかっていた。

検査では、神野教授らが県から提供された感染者の検体から取り出した遺伝子をPCR検査装置で増幅。通常のPCR検査とは異なる蛍光試薬を加えて加熱すると、発する光が強くなった後、弱くなる時の温度が変異株によって異なるため、遺伝子配列の違いを区別できる。デルタ株がさらに変異したデルタプラス株も識別できるといふ。

県内でもデルタ株の感染者が増えつつある。神野教授は「変異株を迅速かつ正確に分類することで感染経路が特定でき、クラスター(感染者集団)対策にもなる」と話した。



発行所 中日新聞社

名古屋市中区三の丸一丁目6番1号

〒460-8511 電話 052(201)8811